

議長（高木将君） 次，7番平山晶邦君の発言を許します。

〔7番 平山晶邦君登壇〕

7番（平山晶邦君） 7番平山晶邦であります。ただいま議長のお許しをいただきましたので，一般質問に入らせていただきます。

私は，この議場に立ち，1年前の6月議会を思っております。6月議会は，市民が財政再建のにしきの御旗を上げ，66名の市議会議員はいらないとして，住民投票活動真ただ中で議会が行われたことを思い出します。6月議会はまた，政治倫理条例等，大切な条例が決まった議会でもありました。その後，常陸太田市始まって以来の議会解散が7月に行われました。そして，8月の選挙によって，現在の私たち26名の議員があるわけがあります。私は，この1年の出来事を振り返るとき，議会活動は市民の多数の理解を得る活動でなければならないと強く思っています。

夕張市に例を見るまでもなく，地方行政の放漫経営に対するチェック機能を果たしていない問題，政務調査費の不透明さの問題等を考えるとき，住民が議員に対し非難するのは当たり前でありましょう。そして今，政府の諮問会議の中でも，地方議員は今の半分でも多いぐらいだという意見交換があることをマスコミは伝えています。このように批判されている時代の中で，私は，市議会議員としての職責をどのように果たしていくのかを常に考え，市議会議員としての市民の批判に耐え得る活動をしなければいけないと，強く思っているものであります。そのことを申し上げ，平成19年第2回市議会での一般質問に入ります。

第1点は，市の施設等の管理運営であります。

市民と話をしておりますと，一体常陸太田市はどのくらいの借金があるんだという質問をよく受けます。私は，一般会計，特別会計合わせて約490億円ぐらいですよと答えるわけですが，次に，どのようにしてその莫大な借金を返すんだという質問を受けます。そこで，市は，行政改革大綱をつくってあるので，それに沿った施策によって行財政改革を進めていると答えております。例えば，常陸太田市の職員の人件費の伸び率はマイナス7.6%であり，全国の市の中でも大変努力をしている市であるということなどもお話をしています。また，一方において，行政効率からいえば，地域が広く，人口が点在化していることによって，茨城県の中でも一番行政効率が悪い地域であることもお話をさせていただき，市民の協力が必要であることをお願いしたりもしております。このことは，第5次総合計画基本構想のまちづくりの基本姿勢に唱えられている行政力改革と市民力改革を基本とした，市民と行政との信頼の確立でもあるわけであります。

さて，当市の財政面は，過疎地域自立促進計画の期限切れや，10年間の合併特例債の限定を考えると，これからますます厳しくなっていくことは明らかであります。私は，今までの議会の場において，行政効率を高めることが必要であるとたびたび申し上げてまいりました。そして，市長も，昨日の同僚議員の質問に対し，経常的経費を減らすことをまずやらねばならないと答弁をされております。経常的経費といえば，義務的経費の人件費，

扶助費及び公債費と、物件費，維持補修費，補助費等ではありますが，今回は特に維持補修費，物件費に関係する市の直接的な施設の管理はどのくらいの費用が必要なのか，そして，施設の運営責任はどのようになっているのかをお伺いいたします。

第2点目は，都市計画の今後の展望についてお伺いをいたします。

都市計画とは，都市の健全な発展と秩序ある整備を図るための土地利用，都市施設の整備及び市街地開発事業に関する計画を言います。その目的は，都市での多種多様な市民生活や企業活動の結果生じる土地利用の混乱や利害の対立を調整し，都市全体の土地利用や都市構造に合理的・統一的な方向を与えて，良好な都市環境を備えた機能的な都市をつくり出すことだと言われております。

そこで，現在の常陸太田市の都市計画はどのような進捗状況にあるのか，そして，都市計画が定められると，定められた都市計画の種類に応じ，さまざまな都市計画制限が働くと言われてますが，未指定の地域において，民間の事業者による開発・整備だけに任せていたのでは，将来に不安が出てくるのではないかと考えます。都市計画指定外の地域において，多くのミニ開発が行われていると思いますが，これらの開発と都市計画との関係はどのように考えたらよいのかをお伺いいたします。

第3点目として，情報公開の進捗状況についてお伺いをいたします。

市長は，魅力ある常陸太田市をつくっていくためには，市民の参画する協働によりつくっていくことが重要であると，常々述べられております。私も，常陸太田市のこれからの財政状況を考えるとき，市民の協力なくしては，市の行政経営は大変厳しい状況を迎えることになるのではないかと予想しています。今後の財政状況の運営いかにによっては，市民のニーズに満遍なくこたえることができなくなる市行政において，市民の力を市にかりいただくことは，当然必要になってまいります。

その前提となるのが，市行政の透明性を高めた情報公開であります。行政の運営は，市民からの税金によって賄われているわけでありますから，基本的には，市民に隠すものはないはずであります。それゆえ，市の行政にかかわるのは，徹底的な情報公開を実行していかなければならないと思います。例えば，市に対する提言等をまとめる各種審議会等の議論の経過等の公開や，さまざまな市の情報を市民に公開することによって，市行政と市民のパートナーシップの構築ができていくものと思います。

大まかな情報公開ときめ細かな情報公開のバランスをとりながら，協働によるまちづくりの情報公開戦略が必要なのではないでしょうか。現在の常陸太田市の情報公開条例の目的は，「市の保有する情報の公開を請求する権利を明らかにするとともに，情報公開の総合的な推進に関し必要な事項を定め，もって市の諸活動を市民に説明する責務が全うされるようにする」とあります。しかし，その基本は，市民が公開請求を行うということが基本になっているような気がいたします。そこで，常陸太田市の情報公開の進捗状況についてお伺いをいたします。

私は，言葉の中での行財政改革ではなく，実践を伴った行財政改革をどのように進めて

いかれるのかという中で、以上3点の質問をお聞きしたいわけであります。

第1回の質問を終わります。

議長（高木将君） 答弁を求めます。総務部長。

〔総務部長 川又善行君登壇〕

総務部長（川又善行君） 市の施設等の管理運営についてにお答えいたします。

本市の直営施設に関する光熱水費，燃料費，草刈り費，委託料などの合計は，一般会計の予算ベースで約11億6,400万円となっております。特別会計に係る施設管理の費用については，約2億2,700万円でございます。一般会計との合計では約13億9,100万円となっております。これらの施設の管理体制につきましては，基本的にはそれぞれの所管部署において条例等の規定により管理をしており，施設の維持管理費用についてもそれぞれの所管部署で管理することとなっております。

以上です。

議長（高木将君） 建設部長。

〔建設部長 川又和彦君登壇〕

建設部長（川又和彦君） 都市計画の今後の展望についてお答え申し上げます。

初めに，都市計画の進捗状況についてでございます。

市におきましては，都市計画の理念でございます都市の健全な発展と秩序ある整備を図ることを目的として，第5次総合計画や都市計画マスタープランなどを踏まえながら，適切な土地利用の誘導と保全を行うとともに，円滑な都市活動を支え，良好な都市環境を確保するための道路，それから，土地区画整理事業などの事業化を図っているところでございます。

また，現在取り組んでおります主な案件の1つといたしまして，議員ご指摘のとおり，金砂郷地区におきます大里や薬谷地区におけるいわゆるミニ開発への都市計画上の対応となつてございますことから，昨年度，現地調査に着手したところでございます。

議長（高木将君） 政策企画部長。

〔政策企画部長 江幡治君登壇〕

政策企画部長（江幡治君） 情報公開の進捗状況についてお答えをいたします。

第5次総合計画におきまして，市民協働によるまちづくりを進めることとしております。そのためには，市政運営の透明性の向上を図り，開かれた市政を推進する必要がありますので，市の保有する情報を公開・公表しますことは，大変重要なことと考えております。

このため，ホームページにつきましては，情報の見出しをつけるなど，改善を図ってきたところでございます。計画につきましては，昨年5月に，高齢者保健福祉計画，あるいは次世代育成支援地域行動計画をホームページに載せております。また，ことしの2月には，第5次総合計画を載せております。昨年につきましては，あと，工業団地の分譲の案内，入札・契約情報，市道整備状況，市有地の売り出しの情報等をホームページでお知

らせしてまいりました。また昨年の10月からは、NTTドコモの携帯電話からアクセスできるようにしたところでございます。本年の4月からは、教育委員会のホームページを市のホームページから分離しまして、内容の充実を図ったところでございます。今後も、情報の積極的な提供に努めてまいりたいというふうに考えております。

また、本年は、市民の皆さんにまちづくりへの理解や関心を深めていただくよう、来月から職員によるまちづくり出前講座を始めることとしております。さらに、市政への市民の皆さんの積極的な参加をいただきますとともに、市の基本的な施策の策定過程において公正性や透明性の向上を図るため、パブリックコメント制度の導入に向けまして、現在、作業を進めているところでございます。

また、各種審議会などの会議結果についてでございますが、情報公開条例に基づきまして、請求があれば公開が可能とはなっておりますが、ホームページなどでの公表は行っていない状況でございます。このため、こういった公表につきましては、今後の研究課題ということで考えております。

以上でございます。

議長（高木将君） 7番平山晶邦君。

〔7番 平山晶邦君登壇〕

7番（平山晶邦君） 3点の質問に対してご答弁ありがとうございました。

1点目の、私は施設等の管理運営を質問いたしましたが、私の聞いた内容はどのくらいかかっているのだということで、13億という答弁がございました。しかし、私は最後に「行財政改革をどのように進めていくのかという観点で、以上の3点をお聞きする」ということを申し上げました。総務部長の回答は、13億かかっているのはわかりました。じゃあ、市長がおっしゃっている経常経費をどのように削減していくのか、この施設管理においてどのように削減していくのかという視点が抜けていたような気がいたします。要するに、経常経費の削減が最大の課題であるというふうな認識を市長自身も持っているわけですから、この施設管理の運営に関しても、13億何がしがかかっているというだけの回答では、私が聞いている回答にはなっていないと思います。

それと、例えば、それに関して遊休地の問題はどうするんだと。そしてまた、施設の管理に関して言えば、さまざまな苦情が私のところへ寄せられております。例えば、市が管理する各市の公園のトイレなんかは、全然使えない。議員諸氏も去年の今ごろ、8月の選挙のときに、休むときに公園のトイレなんかを使って、あんなトイレは使えないと言われたのではないのでしょうか。そのような管理が全くされていない。それは、各所管でやるんでしょうけれども、そういう管理を総務部がどのように各主管部に指導をしているのか、そういうこともお聞きしたいわけでありませう。

そして、市は、莫大な資産を持っている、常陸太田市最大の資産家であります。しかし、今、市長が言っている経常経費というものは固定費であります。この固定費は、求めれば求めるほど、どんどんかかっていく経費であります。きょうの新聞で、日立電鉄の跡地の

問題が、日立市議会の中で言われております。これは、常陸太田市の議会の中でも、全協なんかの説明を市長からいただいております。安価な、限りなくゼロに近いもので譲渡を受けるという説明を市長からいただいております。しかし、日立市は、ここに書いてある内容を見ますと、不動産鑑定をして取得するんだというような求め方であるという内容であります。そして、線路は無償譲渡であると。線路は無償譲渡、これは当たり前であります。常陸太田市においても、あのような線路を全面取得したときに、莫大な経費が……、莫大なというか、経費がかかってくるのではないか。財産をふやせばふやすほど、その管理はかかるわけでありまして。経常経費の削減を望んでいるということであれば、やはりこういう有効な土地の利活用ということに関しても、総務部長からお答えをいただきたかったという気がいたします。

そして、次に、都市計画であります。金砂郷地区の大里、薬谷に関しては調査に入ったということでございます。確かに無秩序な開発……、私のところへある人が参りまして、「不動産会社が道路をつくりました。しかし、境界も何も確認しないで、ただ単に道路をつくってしまいました」という問い合わせがございました。確かに境界も決めない、これは民・民の話ですから、市役所が指導という形になるんでしょうけれども、やはりそういうことが実際に行われている現状でございます。そして、道路をつくって、例えば市に寄附をするという形になった場合なんかは、今度は市の指導によって直すんでしょうけれども、そういう中で、特に金砂郷地区の薬谷、大里地区は、非常に混乱をしているという地区でありますから、何らかの手だてが必要ではないかなと私は考えております。

3番目の情報公開に関しては、よくわかりました。パブリックコメントの導入を図りたい、そしてまた、各審議会の経過内容に関しても今後市民にお知らせをしていきたいと、これはよく理解をいたしました。

そういう中で、1点目の私の質問に関しましては、今申し上げた内容を改めてご答弁いただきたいと考えているものであります。よろしくお願いいたします。

議長（高木将君） 答弁を求めます。総務部長。

〔総務部長 川又善行君登壇〕

総務部長（川又善行君） 2回目の質問にお答えを申し上げます。

施設の管理につきましては、目的や用途も異なっており、特殊性もあることから、今後も各所管部署が連絡調整を密にしながら管理することになると考えております。こうした中で、今後は、他施設との比較を行う中で、仕様や金額にばらつきがないよう進めていく必要がございます。これは、行財政改革という中での考えでございますが、こうした必要がありますので、研究会を立ち上げ、幾つかの施設や業務を対象として、できるものから仕様や積算方法のすり合わせを行ってまいりたいと考えております。

それから、遊休資産についてのご質問でございますけれども、平成17年度から公売をしております。本年度も、継続して実施をすることとしております。今後とも遊休資産の処分に努めてまいり所存でございます。

さらに、財産に関するご質問がございました。これらの財産に関しましては、指定管理者制度の導入や教育施設等の資産の公売などを進めてまいりたいと考えております。また、土地等の取得に当たりましては、有効な活用などを検討しまして、取得してまいりたいと考えているところでございます。

以上です。

議長（高木将君） 7番平山晶邦君。

〔7番 平山晶邦君登壇〕

7番（平山晶邦君） 3回目の登壇をいたしました。質問ではないんですけれども、私の考えを述べさせていただきたいと思います。

行財政が厳しい、そして、先ほども言ったように、490億もの借金を抱えている常陸太田市であります。そして、過疎債も時限立法の中で切れてしまいます。合併特例債の期間も、もうあと6年強の期間しかありません。そういう中で、市長が言っているように、経常的経費を削減して、でき得る限り市民が享受できる投資的経費に回す、これは、市の行政をつかさどる人間にとっては当然のことであります。それゆえ、やはり私は、なるべく固定費がかかるのは、年次計画をもって下げていかなければならないと思います。

先ほども申し上げましたように、人件費の伸びは、全国の市町村から比べても大変低い額に常陸太田市の人件費は抑えられておるのは承知しております。これは、全国に誇れるものであります。

次の段階で、私は、固定費を削減するのは、やはり市が持っている固定資産の処分等を早急に進めていくことではないかなと思っております。そしてまた、一概に全部処分しろと言っているものではありません。市民が望む計画の中で、市民の福祉向上に役立つ施策が求められる土地に関しては、今後も有効利用を図っていかなければならない。これは、私も同じであります。

そういう中で、私は、よく大きな政府と小さな政府という議論がされますが、今現在は、やはり常陸太田市も小さな市役所と言われるような施策で臨んでいく必要があるのではないかなというふうに思います。行財政改革は待たなしであります。本当に時限立法の中で6万人強……、合併時は6万2,000がいた。だけれども、去年の国勢調査ではもう6万人を切っている、5万9,000人の都市になりました。今のままの経緯が進みますと、里美や水府なんかは、1年間に14人とか12人とかという子供しか生まれない地域でありますから、その地域を担う人たちもいなくなってしまう、そのような市であるわけであります。そういう中では、大胆な発想と、そしてまた思い切った業務といいますか、決断で進めていかなければ、私はスピードが間に合わないというふうに考えているものであります。

そういう中で、一段の行財政改革を進めていただくことをお願い申し上げまして、私の一般質問を終わります。